科目名	動物行動学Ⅰ				
科目区分	必修	授業形態	演習	担当講師	前田　愛
使用教室		開講数	15	開講時期	1年前期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		30時間/2単位	
科目概要	・事後課題：復習課題と次講義の課題を授業内で提示します。 イヌ学ではイエイヌの進化と家畜を学び、イエイヌが作出された目的、それぞれの犬種による行動特性を学ぶ。動物行動学総論では動物行動学の基本概念、行動の進化、イエイヌの発達行動および、ネコの進化と家畜化、ネコの発達行動を学ぶ。				
到達目標	イヌ学ではイエイヌを扱う上で、犬種による違いを理解し伴侶動物として適正に扱うことができるスキルを身に着ける。動物行動学では、動物の行動を理解する知識を身に着け、イヌとネコの違いを理解する。				

授業計画

	講義概要
1	イヌの進化と家畜化①（オオカミからイヌへ）
2	イヌの進化と家畜化②（犬種の成り立ちⅠ）
3	イヌの進化と家畜化③（犬種の成り立ちⅡ）
4	ネコの進化と家畜化①（リビアヤマネコからイエネコへ）
5	イヌの発達行動学①（発達行動のステージ）
6	イヌの発達行動学②（遺伝子による影響、行動特性）
7	イヌの発達行動学③（環境による影響）
8	イヌの発達行動学④（トレーニングによる影響）
9	イヌの感覚（視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚）
10	ネコの発達行動学①（発達行動のステージ）
11	ネコの発達行動学②（感覚器の発達）
12	ネコの発達行動学③（摂食行動と捕食行動の発達）
13	ネコの発達行動学④（遊びの発達）
14	ネコの感覚（視覚、聴覚、嗅覚、）
15	最終課題＆総括

使用教材	配布PDFなど		
成績評価	（最終課題）　50% （授業参加度）　35% （出席）　15%	最終課題の方法	授業最終日に試験
その他 注意事項	授業参加度は毎回の提出物を期限までに守るか、質問対しての積極的な態度をみることとする。スマートフォンは授業中使用禁止。ただし、講師の指示があったときのみ使用可。		

科目名	動物行動学Ⅱ				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	前田　愛
使用教室		開講数	15	開講時期	1年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		30時間/2単位	
科目概要	イヌの身体的特徴と行動の関連について学び、適正な飼育方法や接し方についての理解を深めます。 また、トレーニング・トリミングにおいて必要な動物の行動・学習について実践的に学ぶ。 （・可能な者はイヌの持ち込みを指示する場合があります。）				
到達目標	イエイヌ、イエネコの行動を観察した時に、その行動の意味を考えることができるようになる。				

授業計画

	講義概要
1	行動と福祉
2	【感覚器と行動】 イヌの視覚
3	【感覚器と行動】 イヌの嗅覚
4	【感覚器と行動】 イヌの聴覚
5	【感覚器と行動】 イヌの味覚・触覚
6	【観察】 行動観察の方法
7	【観察】 行動観察実践
8	【生得的行動】 繁殖行動
9	【生得的行動】 母性行動
10	【習得的行動】 行動の動機
11	【習得的行動】 行動の原理
12	【コミュニケーション】 環境との相互作用
13	【コミュニケーション】 観察から得られる情報
14	ペットと関わる者としてできることを考える
15	最終試験

使用教材	配布PDFなど		
成績評価	（最終課題）　50% （授業参加度）　35% （出席）　15%	最終課題の方法	授業最終日に試験
その他 注意事項	〈授業参加度〉 不定期に行う小テストの結果・授業態度によって評価 講義中の講師とのアイコンタクト・うなずき・質問は加点対象です。		

科目名	動物行動学Ⅲ				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	前田　愛
使用教室		開講数	15	開講時期	2年前期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		30時間/2単位	
科目概要	動物の行動の学習理論を学ぶことにより、動物の行動をより深く理解する。 適応的な行動、不適応行動についての理解を深め、動物の福祉を損なうことのない生活・環境・コミュニケーション・ケアについて考える。 学習理論・行動分析学を基に、動物に負担のないトレーニング・トリミングに必要な実践的スキルを学ぶ。 （・可能な者はイヌの持ち込みを指示する場合があります。）				
到達目標	馴化、鋭敏化、レスポンデント条件づけ、オペラント条件づけなどをしっかり理解する				

授業計画

	講義概要
1	「問題行動」とは何か ～それが起こる理由～
2	馴化・鋭敏化　～「慣れ」の正体～
3	三項随伴性 ～行動の「機能」～
4	レスポンデント条件づけ ～行動の「動機」～
5	拮抗条件づけ　～「苦手克服」の原理～
6	レスポンデント条件づけ実践
7	「行動」とは何か ～行動を科学的に定義する～
8	オペラント条件づけ ～「強化」の原理～
9	「正の強化」実践
10	オペラント条件づけ ～「弱化」の原理と恐ろしさ～
11	オペラント条件づけ ～行動が変わる理由～
12	トレーニング・トリミングに必要な条件づけスキル
13	「弁別刺激」が命！
14	不適応行動に対処する～トレーニング・トリミング場面～
15	最終試験

使用教材	配布PDFなど		
成績評価	（最終課題）　50% （授業参加度）　35% （出席）　15%	最終課題の方法	授業最終日に試験
その他 注意事項	〈授業参加度〉 不定期に行う小テストの結果・授業態度によって評価 講義中の講師とのアイコンタクト・うなずき・質問は加点対象です。		

総合ペット学科

科目名	基礎看護Ⅰ				
科目区分	必修	授業形態	講義	担当講師	高砂　友美
使用教室		開講数	15	開講時期	1年前期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		30時間/2単位	
科目概要	動物の健康管理を行う上で、とても大切な正常を学び、状態の変化を相手に 伝えるポイントや対応方法も学んでいきます。 小テストを行い授業の理解度を図ります。				
到達目標	正常を知ることにより状態の変化に気付き相手に分かりやすく伝える事を目標とします。				

授業計画

	講義概要
1	健康管理(TPR)・体型（BCS）
2	実践(TPR)
3	顕微鏡の使い方
4	糞便検査
5	便から見る異常
6	尿検査
7	尿から見る異常
8	耳・外耳炎・耳浴
9	保定と投薬・点眼方法
10	皮膚と皮膚炎
11	薬用シャンプーの種類
12	混合ワクチン
13	狂犬病予防注射
14	歯について
15	試験

使用教材			
成績評価	(最終課題) 50% (授業参加度) 35% (出席) 15%	最終課題の方法	試験
その他 注意事項	授業中のスマホ・パソコンなどのモバイル機器の使用は不可です。 小テストの結果は理解の度合いとし授業参加度として評価します。		

総合ペット学科

科目名	飼育基礎演習Ⅰ～Ⅳ				
科目区分	必修	授業形態	演習	担当講師	山美　希実
使用教室		開講数	60	開講時期	1年前期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		120時間/4単位	
科目概要	様々いる犬の特性を理解し、日頃の管理、体調管理を学ぶ 犬が安全に過ごせる環境づくりを行う 他者と連携をとりチームで行動することえお学ぶ				
到達目標	犬の適切な管理方法を修得				

授業計画

	講義概要
1	世話の重要性を認識。学校犬の把握
2	他学年との共有
3	世話の内容確認、変更事項の確認（各犬舎と排泄場に関して）
4	世話の内容確認、変更事項の確認（餌場まわり、ペットシーツ使用、中庭の利用など）
5	散歩に行く際のルール、注意事項
6	犬舎掃除のやり方
7	歯磨きのやり方
8	犬舎掃除で必要な事（掃除と消毒）
9	物品管理と伝達方法について
10	パートナードッグの共有
11	体重管理、健康管理について
12	それぞれの曜日ごとの世話の共有と見直し
13	犬舎ごとの犬の状態把握と見直し
14	各犬舎の大掃除、ごみ拾い
15	世話の現状共有

使用教材			
成績評価	（最終課題）　20% （授業参加度）　65% （出席）　15%	最終課題の方法	日頃の世話の取り組みを第一に評価
その他 注意事項	日頃の世話を当番は休まず参加する事		

総合ペット学科

科目名	グルーミング基礎概論Ⅰ				
科目区分	必修	授業形態	講義	担当講師	伊藤　愛
使用教室		開講数	15	開講時期	1年前期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		30時間/2単位	
科目概要	・事前課題　:使用テキストを閲覧しておくこと ・事後課題　:次講義の課題は授業内にてその都度提示 ・関連科目:トリミング実習、ウィッグ ・授業内容及び方法 グルーミング(トリミング)の目的・各作業における道具の種類や用途、 基本的なカットの方法、また犬の生態についてを説示します。				
到達目標	グルーミング各作業の基礎やベーシックなカット方法を修得する				

授業計画

	講義概要
1	グルーミング各作業における目的と道具の種類・用途　①（グルーミング・トリミング）
2	グルーミング各作業における目的と道具の種類・用途　②（ブラッシング・コーミング）
3	グルーミング各作業における目的と道具の種類・用途　③（クリッピング・爪切り・耳掃除）
4	グルーミング各作業における目的と道具の種類・用途　④（ベイシング・ドライング）
5	グルーミング各作業における目的と道具の種類・用途　⑤（クリッパー及びシザーの構造）
6	グルーミング各作業における目的と道具の種類・用途　⑥（足回り等の部分カット）
7	グルーミング犬種の各パーツのカット方法
8	犬種のバラエティ　①
9	犬種のバラエティ　②
10	犬体名称・骨格名称・サイズ名称
11	犬の皮膚と被毛について
12	犬の歯と咬合について
13	全身クリッピング方法と注意点、顔の部分カット方法
14	前期定期試験実施
15	前期定期試験の解答と解説

使用教材	テキスト(ドッググルーマーズワークブック、犬種図鑑)、配布プリント		
成績評価	(最終課題)　40% (授業参加度)　45% (出席)　15%	最終課題の方法	記述式試験
その他 注意事項	飲料可。授業内で指示に応じてインターネット使用可。授業参加度はテキストの不所持、授業に関係ない私語や作業、居眠りは減点評価。授業に関する積極的な質問・発言は加点評価になります。		

総合ペット学科

科目名	グルーミング基礎演習Ⅰ				
科目区分	必修	授業形態	演習	担当講師	伊藤、銭谷、瀧、秋山、小野寺、島田、山田
使用教室	トリミングルーム	開講数	30	開講時期	1年前期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		60時間/2単位	
科目概要	・関連科目　グルーミング基礎概論Ⅰ ・授業の内容・方法　　2コマ（15回の実習）ごと様々な犬種に実際触れながら 犬の状態の把握、道具の使用・保定・グルーミングについて解説、実習を行います。				
到達目標	基本的な道具の使用、犬への対応、シャンプー＆ブローの基礎、ベーシックの基本				

授業計画

	講義概要
1	eco2312
2	道具の正しい持ち方と使用方法
3	犬体チェック（皮膚、被毛、耳、目、その他健康状態）
4	ベーシック（爪切りと爪やすり）
5	ベーシック（足裏バリカン）
6	ベーシック（耳掃除）
7	ベーシック（ブラッシング）
8	ベーシック（肛門腺）
9	ベーシック（シャンプー）
10	ベーシック（ブロー）
11	シザーとコームの正しい使用
12	ベーシック（肛門回りカット）
13	ベーシック（足回りカット）
14	ベーシック（ヒゲカット）
15	ベーシック（腹バリ）

使用教材	配布PDFなど		
成績評価	（最終課題）　35% （授業参加度）　50% （出席）　15%	最終課題の方法	授業最終日に実技
その他 注意事項			

総合ペット学科

科目名	犬のしつけ基礎概論				
科目区分	必修	授業形態	講義	担当講師	山美　希実
使用教室		開講数	15	開講時期	1年前期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		30時間/2単位	
科目概要	家庭内で起こり得る問題を理解し、対処法・アドバイスの仕方を習得。 犬を育てる過程で、仔犬の扱い方や注意点を理解し、問題を未然に防ぐ為の飼育方法を理解すること。				
到達目標	飼い主さんに対してわかりやすくアドバイスできる力をつける				

授業計画

	講義概要
1	授業の目的、評価に関しての説明 しつけの重要性・しつけとトレーニングの違い、注意点
2	仔犬の成長段階とその特徴
3	犬を飼うための備え、確認事項、飼う為には何が必要でいくらかかる？
4	犬を迎えたら（1日の流れ）注意すること、触れ合う際の注意
5	犬の一般常識確認 犬を飼うための常識（ワクチンは何が必要でいつ、フィラリア、ダニ、発情、妊娠、など）
6	パピートレーニング （強化すること、未然に防ぐ事、罰則は必要？子犬の欲求を満たすには）
7	トイレトレーニング （強化すること、未然に防ぐ事、罰則は必要？子犬の欲求を満たすには）
8	ハウストレーニング、留守番 （強化すること、未然に防ぐ事、罰則は必要？子犬の欲求を満たすには）
9	社会化、物を噛む、甘噛み （強化すること、未然に防ぐ事、罰則は必要？子犬の欲求を満たすには）
10	仔犬に対して必要な取り組み（アイコンタクト＆呼び戻し、体を触る、ご飯時）
11	仔犬時からやめさせたいこと（食糞、マウンティング、顔なめ、おねだり、マーキング）
12	犬の挨拶（犬同士、対人）お散歩の注意点、見られる問題。対応。 首輪、チョーク、ハーネス、ヘッドカラーそれぞれ特徴
13	吠えの原因は様々。それぞれのパターンを理解して対応を考える
14	犬種の特性と飼い易さ、どうアドバイスをするか しつけを飼い主さんに指導する。実際に寄せられるしつけ相談対応を考える
15	実際に寄せられるしつけ相談対応を考える

使用教材	モニター		
成績評価	（最終課題）50% （授業参加度）35% （出席）15%	最終課題の方法	筆記試験
その他 注意事項	実践を交えて行うことがあります		

総合ペット学科

科目名	犬のしつけ基礎演習				
科目区分	必修	授業形態	演習	担当講師	山美　希実
使用教室		開講数	15	開講時期	1年前期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		30時間/1単位	
科目概要	犬の基本的な扱いを理解する 犬に対する、正しい賞罰の方法を習得 犬に対して正しい指示だしができるようになる				
到達目標	犬の基本的な扱い、接し方を習得し犬との信頼関係を構築する				

授業計画

	講義概要
1	授業の目的、授業の流れ、評価ポイントの説明
2	トレーニングの目的、犬と接する上での注意点
3	学校犬の説明,扱いの注意点
4	リードの使い方、結び方、持ち方
5	コミュニケーションのとり方、トレーニングの手順
6	指示の出し方、対応の仕方
7	褒めることについて、犬のモチベーションをあげるための工夫
8	犬の性格を考えて接することの注意点
9	犬の基本姿勢を理解する　座れ
10	犬の基本姿勢を理解する　伏せ
11	犬の基本姿勢を理解する　来い
12	犬の基本姿勢を理解する　一緒に歩く
13	犬の基本姿勢を理解する　待て
14	散歩でのマナー
15	実技試験

使用教材			
成績評価	(最終課題) 50% (授業参加度) 35% (出席) 15%	最終課題の方法	実技試験を実施
その他 注意事項	動きやすい恰好、ヒール禁止、犬のご褒美は各自用意		

総合ペット学科

科目名	コミュニケーションマナー				
科目区分	選択必修	授業形態	講義	担当講師	奥田　真弓
使用教室		開講数	15	開講時期	3年前期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		30時間/2単位	
科目概要	自己理解・他者理解を深めるための体験学習を通して、対人関係の基礎となるコミュニケーション力アップを目指す。また、社会人として求められる基本的なマナーを学び、職場での信頼関係を構築する力を育む。				
到達目標	社会人として必要な挨拶・対人スキル・電話応対など一般常識としてのマナーを学び実践できる力を身に付け、実習、就職活動にも役立てます。				

授業計画

	講義概要
1	オリエンテーション　コミュニケーションとマナーを学ぶ意味
2	自己理解　自分分析による「思い込み枠」とその広げ方
3	他者理解　価値観の違い　苦手な人とのつきあい方
4	コミュニケーションの仕組み　一方向・双方向の違いとミス・コミュニケーション
5	話す・きく・観る①　「伝える力」のチェック　「伝わる声」「伝わる言葉」とは
6	話す・きく・観る②　「きく力」のチェック　傾聴姿勢トレーニング
7	話す・きく・観る③　「共感する力」のチェック　「繰り返し」「言い換え」の練習
8	話す・きく・観る④　情報を正しく共有するための「質問」
9	話す・きく・観る⑤　言葉にならない心を読み取る「観察力」
10	信頼関係をつくる言葉と言い換え　あいさつとビジネスフレーズ
11	電話応対マナー　声に表情をつくる
12	来客応対マナー　好印象な受付・案内・会計・見送りのポイント
13	職場でのマナー　実践ロープレ①
14	＊定期試験実施（筆記）　職場でのマナー　実践ロープレ②
15	＊定期試験解説　「チームワーク」の高め方

使用教材			
成績評価	（最終課題）35% （授業参加度）50% （出席）15%	最終課題の方法	記述式試験
その他 注意事項	＜授業参加度＞ ①ワークへの積極的な参加態度②授業目標到達度③提出物の内容④確認ミニテストで総合的に評価します。 犬の持ち込み不可		

総合ペット学科

科目名	基礎看護Ⅱ				
科目区分	選択必修	授業形態	講義	担当講師	高砂　友美
使用教室		開講数	15	開講時期	1年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		30時間/2単位	
科目概要	基礎看護を理解した上で、予防獣医療について学んでいきます。 小テストを行い授業の理解度を図ります。				
到達目標	病気を予防するためにの必要な知識を身に着けます。				

授業計画

	講義概要
1	熱中症
2	感染と消毒
3	ウイルス疾患
4	発情から出産①
5	発情から出産②
6	新生仔について①
7	新生仔について②
8	不妊手術とは
9	ダイエットの必要性
10	必要とされる栄養素①
11	必要とされる栄養素②
12	循環器疾患
13	内分泌疾患
14	応急処置とエマージェンシー
15	試験

使用教材			
成績評価	(最終課題) 50% (授業参加度) 35% (出席) 15%	最終課題の方法	試験
その他 注意事項	授業中のスマホ・パソコンなどのモバイル機器の使用は不可です。 小テストの結果は理解の度合いとし授業参加度として評価します。		

科目名	飼育演習Ⅰ～Ⅴ				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	山美　希実
使用教室		開講数	75	開講時期	1年後期～3年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		150時間/5単位	
科目概要	様々いる犬の特性を理解し、日頃の飼育管理、体調管理を学ぶ 犬が安全に過ごせる環境づくりを行う 後輩に対して指導を行い正しくわかりやすく伝授する、他者との連携をとる				
到達目標	犬の適切な管理方法を修得、他者とのコミュニケーション能力の向上				

授業計画

	講義概要
1	学校犬の現状把握
2	他学年との共有、担当犬・パートナー犬の説明と共有
3	世話の内容確認、変更事項の確認
4	世話の見直し点を確認（出来ている事、出来ていないこと、変更点）
5	散歩中の犬の問題点確認、ルール確認
6	犬舎の配置確認
7	歯磨きのやり方、使用器具や犬の口内状況確認
8	犬舎掃除で必要な事
9	物品の確認
10	学校犬・パートナードッグの状況確認
11	体重管理、健康チェック
12	それぞれの曜日ごとの世話の共有と見直し
13	犬舎ごとの犬の状態把握と見直し
14	犬舎の大掃除、ごみ拾い
15	世話の現状共有

使用教材			
成績評価	（最終課題）　20% （授業参加度）　65% （出席）　15%	最終課題の方法	日頃の世話当番での取り組みを第一に評価をする
その他 注意事項			

総合ペット学科

科目名	愛玩動物飼養管理Ⅰ				
科目区分	選択必修	授業形態	講義	担当講師	向日奈子
使用教室		開講数	15	開講時期	2年前期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		30時間/2単位	
科目概要	・事前課題：次の授業で行う箇所のデータ・プリントを渡すので事前に見ておく ・事後課題：毎回の授業終わりにFormsにて課題を出します 最終的には愛玩動物飼養管理士2級の合格を目指す。 資格習得のみが目的ではなく、前期から継続し動物の飼養管理・しつけ等の知識習得を図る				
到達目標	現在の人と動物の関わりからその歴史まで動物に対する思想・動物観の移り変わりを知る。				

授業計画

	講義概要
1	【第Ⅰ編：愛玩動物飼養管理士】社団法人日本愛玩動物協会の目的・事業、愛玩動物飼養管理士とは
2	【第Ⅱ編：人と動物の関係学Ⅰ】人と動物のかかわり～海外の動物観①
3	【第Ⅱ編：人と動物の関係学Ⅰ】人と動物のかかわり～海外の動物観②
4	【第Ⅱ編：人と動物の関係学Ⅰ】多様な動物思想とその歴史1～共生という考え方①
5	【第Ⅱ編：人と動物の関係学Ⅰ】多様な動物思想とその歴史1～共生という考え方②
6	【第Ⅱ編：人と動物の関係学Ⅰ】利用目的により異なるかかわりかた～動物愛護の今後の展望
7	【第Ⅲ編：動物関係法令Ⅰ】動物と法律～動物の飼養及び保管に関する基準①
8	【第Ⅲ編：動物関係法令Ⅰ】動物と法律～動物の飼養及び保管に関する基準②
9	【第Ⅲ編：動物関係法令Ⅰ】動物取扱業1第一種動物取扱業～虐待と罰則
10	【第Ⅲ編：動物関係法令Ⅰ】特定動物～周辺の生活環境の保全等
11	【第Ⅲ編：動物関係法令Ⅰ】飼育動物と関係法令～愛がん動物用飼料の安全性の確保に関する法律
12	【第Ⅲ編：動物関係法令Ⅰ】野生動物と関係法令Ⅰ、【第Ⅳ編：ペット業界の現状と広がり】
13	【第Ⅴ編：動物の体の仕組みと働き】体の基本の仕組み～老廃物の排出、異物の撃退と解毒
14	課題報告問題実施
15	最終課題(Forms)

使用教材	愛玩動物飼養管理士教本2級1巻、Forms、プリント等		
成績評価	(最終課題) 50% (授業参加度) 35% (出席) 15%	最終課題の方法	Forms
その他 注意事項	・課題をモバイルを使い行う為スマホ使用可※ただし、使用許可を出した時限定。 ・事後課題を次の授業で確認します。 ・最終課題よりも課題と授業態度を評価します。※もちろん課題をやってこなかった場合は評価が下がります ・教科書・配布物は必ず持ってくること ・飲み物は飲んでも可 ※進行具合により授業計画が多少前後することがあります		

総合ペット学科

科目名	愛玩動物飼養管理Ⅱ				
科目区分	選択必修	授業形態	講義	担当講師	向日奈子
使用教室		開講数	8	開講時期	2年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		15時間/1単位	
科目概要	・事前課題：次の授業で行う箇所のデータ・プリントを渡すので事前に見ておく ・事後課題：毎回の授業終わりにFormsにて課題を出します 最終的には愛玩動物飼養管理士2級の合格を目指す。 資格習得のみが目的ではなく、前期から継続し動物の飼養管理・しつけ等の知識習得を図る				
到達目標	愛玩動物飼養管理士2級の合格				

授業計画

	講義概要
1	【第Ⅳ編】動物の飼養管理～動物の繁殖
2	【第Ⅴ編：動物の飼養管理】犬の飼養管理～猫の飼養管理
3	【第Ⅴ編：動物の飼養管理】その他の哺乳類の飼養管理ウサギ～チンチラ
4	【第Ⅴ編：動物の飼養管理】鳥類の飼養管理～手乗り鳥として飼養する
5	【第Ⅴ編：動物の飼養管理】爬虫類の飼養～終末期のケアと介護
6	【第Ⅴ編：動物の飼養管理】動物の保定～室内飼養猫のしつけの基本
7	確認問題①（40問）
8	確認問題②（60問）＋最終課題
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

使用教材	愛玩動物飼養管理士教本2級2巻、ペットの飼養管理、Forms、プリント等		
成績評価	（最終課題） 50% （授業参加度） 35% （出席） 15%	最終課題の方法	マークシート形式の試験
その他 注意事項	・課題をモバイルを使い行う為スマホ使用可※ただし、使用許可を出した時限定。 ・事後課題を次の授業で確認します。 ・最終課題よりも課題と授業態度を評価します。※もちろん課題をやってこなかった場合は評価が下がります ・教科書・配布物は必ず持ってくること ・飲み物は飲んでも可 ※進行具合により授業計画が多少前後することがあります		

総合ペット学科

科目名	グルーミング基礎演習Ⅱ～Ⅵ				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	伊藤、銭谷、瀧、秋山、小野寺、島田、山田
使用教室	トリミングルーム	開講数	150	開講時期	1年後期～3年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		300時間/10単位	
科目概要	・関連科目　グルーミング基礎概論Ⅰ、スタンダード美容理論A～E ・授業の内容・方法　　2コマ（15回の実習）ごと様々な犬種に実際触れながら 犬の状態の把握、道具の使用・保定・グルーミングについて解説、実習を行います。 特にシャンプー＆ブローに関しては高い完成度を目指します。 学生それぞれの修得状況に応じてステップアップ				
到達目標	ベーシックの完成度、犬体コントロールとコミュニケーション、正しい道具の使用				

授業計画

	講義概要
1	犬体コントロールと声掛けと表情
2	ベーシック（爪切りと爪やすり）
3	ベーシック（足裏バリカン）
4	ベーシック（耳掃除）
5	ベーシック（ブラッシング）
6	ベーシック（肛門腺）
7	ベーシック（シャンプー）
8	ベーシックの完成度（犬種ごと部位ごとのシャンプー）
9	ベーシックの完成度（ブロー）
10	ベーシックの完成度（犬種や毛質ごとのブロー）
11	ベーシックの完成度（腹バリ、肛門回り）
12	ベーシックの完成度（ヒゲカット）
13	ベーシックの完成度（毛種ごとの足回りカット）
14	道具の正しい使用、シザーとコームの正しい使用
15	ベーシックの完成度と時間

使用教材	配布PDFなど		
成績評価	（最終課題）　35% （授業参加度）　50% （出席）　15%	最終課題の方法	授業最終日に実技
その他 注意事項			

科目名	グルーミング演習Ⅰ～Ⅵ				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	伊藤、銭谷、瀧、秋山、小野寺、島田、山田
使用教室	トリミングルーム	開講数	180	開講時期	1年前期～3年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		360時間/12単位	
科目概要	・関連科目　グルーミング基礎概論Ⅰ、スタンダード美容理論A～E ・授業の内容・方法　　それぞれの選択状況に応じ基本のベーシック、カット、接客 ペットカット、犬種ごとのスタンダードカット、デザインカットなどに 取り組みます。				
到達目標	犬に合わせた保定や声掛け・対応。ベーシックの完成度とスピードアップ。カット				

授業計画

	講義概要
1	犬体コントロールと声掛け
2	道具の正しい使用、シザーとコームの正しい使用
3	ベーシックの完成度と時間
4	カット
5	全貌
6	バランス
7	目線の高さ
8	作業中の犬との適切な距離
9	表情とセルフコントロール
10	シザーワーク
11	犬種ごとのスタンダードへの理解と欠点カバーの実践
12	接客とカウンセリング
13	時間内での完成
14	清掃・消毒
15	周囲への配慮

使用教材	配布PDFなど		
成績評価	(最終課題)　35% (授業参加度)　50% (出席)　15%	最終課題の方法	授業最終日に実技
その他 注意事項			

総合ペット学科

科目名	ホリスティックグルーミング Ⅰ ～ Ⅴ				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	伊藤、銭谷、瀧、秋山、小野寺、島田、山田
使用教室	トリミングルーム	開講数	150	開講時期	1年後期～3年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		300時間/10単位	
科目概要	・関連科目　スタンダード美容理論　基礎看護Ⅰ Ⅱ ・授業の内容・方法　　皮膚・被毛・体臭の状態によりシャンプー剤の変更や 保湿の実施、各種パック、炭酸泉の使用などを行う				
到達目標	犬の状態把握と適切な対処				

授業計画

	講義概要
1	犬の状態把握
2	適切な対処の検討
3	保湿
4	ハーブパック
5	シルクパック
6	はちみつ泡パック
7	プロテイン
8	ケラチン
9	プロテイン　温浴
10	ケラチン　　温浴
11	炭酸泉　かけ流し
12	炭酸泉　温浴
13	ハーブ温浴
14	シャンプーマシンの使用
15	保温

使用教材	配布PDFなど		
成績評価	(最終課題)　35% (授業参加度)　50% (出席)　15%	最終課題の方法	授業最終日に実技
その他 注意事項			

科目名	トリミングA～G				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	伊藤、銭谷、瀧、秋山、小野寺、島田、山田
使用教室	トリミングルーム	開講数	210	開講時期	1年前期～3年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		420時間/14単位	
科目概要	・関連科目　グルーミング基礎概論Ⅰ、スタンダード美容理論A～E ウィッグA～E、コートケアA～F ・授業の内容・方法　A～Gで開講 資格取得を目指し基礎から応用まで修得				
到達目標	犬種、カットなどに合わせたベーシック。資格取得に向けたカット				

授業計画

	講義概要
1	犬体コントロールと声掛け
2	道具の正しい使用、シザーとコームの正しい使用
3	ベーシックの完成度と時間
4	カット
5	全貌
6	バランス
7	目線の高さ
8	作業中の犬との適切な距離
9	表情とセルフコントロール
10	シザーワーク
11	犬種ごとのスタンダードへの理解と欠点カバーの実践
12	接客とカウンセリング
13	時間内での完成
14	清掃・消毒
15	周囲への配慮

使用教材	配布PDFなど		
成績評価	（最終課題）35% （授業参加度）50% （出席）15%	最終課題の方法	授業最終日に実技
その他 注意事項			

科目名	ウイッグⅠ				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	伊藤　愛
使用教室		開講数	15	開講時期	1年前期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		30時間/1単位	
科目概要	・関連科目　：　トリミング実習、グルーミング基礎概論Ⅰ ・授業内容及び方法 プードルの骨格の構成を含むスタンダード（犬種標準）を理解し、それを表現する テディベアカット及びケネル &ラムクリップを説示します。 他、シザー・コームなどの道具を正しい扱い方、カット時における姿勢や目線、 立ち位置、テーブルマナーなども学びます。				
到達目標	プードルのスタンダードを理解し、道具を正しく使用してプードルのカットを習得します。				

授業計画

	講義概要
1	ドッグマネキンのブラッシングとコーミング　①
2	ドッグマネキンのブラッシングとコーミング　②
3	ドッグマネキンを使用してのシザーリング練習
4	トリミングリボンの付け方(ラッピング)
5	プードルのスタンダード（犬種標準）を学ぶ　①
6	プードルのスタンダード（犬種標準）を学ぶ　②
7	プードルのカット手順を覚える
8	ドッグマネキン　足回りカット
9	ドッグマネキン　体高と体長の見定め
10	ドッグマネキン　体躯のカット
11	ドッグマネキン　後躯のアウトラインを作る
12	ドッグマネキン　前躯のアウトラインを作る
13	ドッグマネキン　前肢・後肢のカット　①
14	ドッグマネキン　前肢・後肢のカット　②
15	最終課題実施

使用教材	配布プリント、教科書、ドッグマネキン		
成績評価	(最終課題)　25% (授業参加度)　60% (出席)　15%	最終課題の方法	記述式試験
その他 注意事項	飲食物持込不可。指示に応じてスマートフォン使用可。授業参加度は道具の使い方、仕上がり、実習への取り組み、提出物、清掃などを評価します。		

科目名	ウイッグⅡ				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	伊藤　愛
使用教室		開講数	15	開講時期	1年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		30時間/1単位	
科目概要	・関連科目　：　トリミング実習、グルーミング基礎概論Ⅰ ・授業内容及び方法 プードルの骨格の構成を含むスタンダード（犬種標準）を理解し、それを表現する テディベアカット及びケネル &ラムクリップを説示します。 他、シザー・コームなどの道具を正しい扱い方、カット時における姿勢や目線、 立ち位置、テーブルマナーなども学びます。				
到達目標	プードルのスタンダードを理解し、道具を正しく使用してプードルのカットを習得します。				

授業計画

	講義概要
1	ドッグマネキン　アンダーラインの設定
2	ドッグマネキン　タックアップの設定と中躯のカット
3	ドッグマネキン　前躯・中躯・後躯の繋ぎの確認
4	ドッグマネキン　テディベアカットの顔カット　①
5	ドッグマネキン　テディベアカットの顔カット　②
6	ドッグマネキン　ネックラインのカット、耳・尾のカット
7	ドッグマネキン　全体のバランス、各部位の繋ぎの確認と振り返り　①
8	ドッグマネキン　全体のバランス、各部位の繋ぎの確認と振り返り　②
9	フェイス用ウィッグ　テディベアカットの顔カット　①
10	フェイス用ウィッグ　テディベアカットの顔カット　②
11	ドッグマネキン　ケネル&ラムクリップの顔・ネックのクリッピング
12	課題対策　①
13	課題対策 ②
14	課題実施　①
15	課題実施　②

使用教材	配布プリント、教科書、ドッグマネキン		
成績評価	（最終課題）　25% （授業参加度）　60% （出席）　15%	最終課題の方法	実技試験
その他 注意事項	飲食物持込不可。指示に応じてスマートフォン使用可。授業参加度は道具の使い方、仕上がり、実習への取り組み、ポートフォリオを含む提出物、清掃などを評価します。		

科目名	ウイッグⅢ				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	伊藤　愛
使用教室		開講数	15	開講時期	2年前期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		30時間/1単位	
科目概要	・関連科目　：　トリミング実習、スタンダード美容理論 ・授業内容及び方法 プードルの骨格の構成を含むスタンダード（犬種標準）を理解し、それを表現する パピークリップを説示します。 他、シザー・コームなどの道具を正しい扱い方、カット時における姿勢や目線、 立ち位置、テーブルマナーなども学びます。				
到達目標	プードルのスタンダードを理解し、道具を正しく使用してプードルのカットを習得します。				

授業計画

	講義概要
1	課題の振り返りと手直し　①
2	課題の振り返りと手直し　②
3	課題の振り返りと手直し　③
4	課題の振り返りと手直し　④
5	グルーミング作業の見直し　①
6	グルーミング作業の見直し　②
7	ドッグマネキン　パピー・クリップ　①
8	ドッグマネキン　パピー・クリップ　②
9	ドッグマネキン　パピー・クリップ　③
10	ドッグマネキン　パピー・クリップ　④
11	ドッグマネキン　パピー・クリップ　⑤
12	ドッグマネキン　パピー・クリップ　⑥
13	ドッグマネキン　パピー・クリップ　⑦
14	ドッグマネキン　パピー・クリップ　⑧
15	最終課題実施

使用教材	配布プリント、教科書、ドッグマネキン		
成績評価	（最終課題）　25% （授業参加度）　60% （出席）　15%	最終課題の方法	記述式試験
その他 注意事項	飲食物持込不可。指示に応じてスマートフォン使用可。授業参加度は道具の使い方、仕上がり、実習への取り組み、提出物、清掃などを評価します。		

科目名	ウイッグⅣ				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	伊藤　愛
使用教室		開講数	15	開講時期	2年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		30時間/1単位	
科目概要	・関連科目　：　トリミング実習、スタンダード美容理論 ・授業内容及び方法 プードルの骨格の構成を含むスタンダード（犬種標準）を理解し、それを表現する パピークリップを説示します。 他、シザー・コームなどの道具を正しい扱い方、カット時における姿勢や目線、 立ち位置、テーブルマナーなども学びます。				
到達目標	プードルのスタンダードを理解し、道具を正しく使用してプードルのカットを習得します。				

授業計画

	講義概要
1	ドッグマネキン　パピー・クリップⅡ　①
2	ドッグマネキン　パピー・クリップⅡ　②
3	ドッグマネキン　パピー・クリップⅡ　③
4	フェイスウィッグ　テディベアカット　①
5	フェイスウィッグ　テディベアカット　②
6	フェイスウィッグ　ニュアンスベアカット　①
7	フェイスウィッグ　ニュアンスベアカット　②
8	フェイスウィッグ　アフロカット　①
9	フェイスウィッグ　アフロカット　②
10	フェイスウィッグ　マッシュルームカット　①
11	フェイスウィッグ　マッシュルームカット　②
12	B級ライセンス試験対策　①
13	B級ライセンス試験対策　②
14	課題実施（B級ライセンス模擬試験）　①
15	課題実施（B級ライセンス模擬試験）　②

使用教材	配布プリント、教科書、ドッグマネキン		
成績評価	（最終課題）　% （授業参加度）　% （出席）　15%	最終課題の方法	実技試験
その他 注意事項	飲食物持込不可。指示に応じてスマートフォン使用可。授業参加度は道具の使い方、仕上がり、実習への取り組み、提出物、清掃などを評価します。		

科目名	ウイッグⅤ				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	伊藤　愛
使用教室		開講数	15	開講時期	3年前期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		30時間/1単位	
科目概要	・関連科目　：　トリミング実習、スタンダード美容理論 ・授業内容及び方法 プードルの骨格の構成を含むスタンダード（犬種標準）を理解し、それを表現する プードルの様々なカットバリエーションを説示します。 他、シザー・コームなどの道具を正しい扱い方、カット時における姿勢や目線、 立ち位置、テーブルマナーなども学びます。				
到達目標	プードルのスタンダードを理解し、道具を正しく使用してプードルのカットを習得します。				

授業計画

	講義概要
1	課題の振り返りと手直し　①
2	課題の振り返りと手直し　②
3	グルーミング作業の見直し　①
4	グルーミング作業の見直し　②
5	ドッグマネキン　プードルの様々なアレンジカット　①
6	ドッグマネキン　プードルの様々なアレンジカット　②
7	ドッグマネキン　プードルの様々なアレンジカット　③
8	ドッグマネキン　ケネル＆ラムクリップ　①
9	ドッグマネキン　ケネル＆ラムクリップ　②
10	ドッグマネキン　ケネル＆ラムクリップ　③
11	ドッグマネキン　ケネル＆ラムクリップ　④
12	課題実施　①
13	課題実施　②
14	課題の振り返りと手直し　①
15	課題の振り返りと手直し　②

使用教材	配布プリント、教科書、ドッグマネキン		
成績評価	（最終課題）　25% （授業参加度）　60% （出席）　15%	最終課題の方法	実技試験
その他 注意事項	飲食物持込不可。指示に応じてスマートフォン使用可。授業参加度は道具の使い方、仕上がり、実習への取り組み、提出物、清掃などを評価します。		

科目名	コートケアⅠ～Ⅵ				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	工藤　堀江　伊藤　小野寺　髙辻
使用教室	トリミングルーム	開講数	180	開講時期	1年前期～3年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		180時間/12単位	
科目概要	・関連科目　：　グルーミング、トリミング ・授業の内容及び方法 専門学校に年勤務した経験、またトリミング競技会やドッグショーでの実績を活かし、コンディションに合わせたプードルのグルーミング方法をお伝えします。 また、プードル犬種標準の理解を深めながら、継続的な練習により少しずつ技術の精度を上げて行きます。				
到達目標	正しいブラッシング、シャンプー、ブローによりプードル本来のコートの美しさを最大限に引き出し、より理想に近いプードルのアウトラインを表現できるようになる。				

授業計画

	講義概要
1	・犬種標準について　：　ジャパンケネルクラブ　プードル犬種標準の解説① ・道具の使用方法　解説　　・各自のモデル犬で実践
2	・犬種標準について　：　ジャパンケネルクラブ　プードル犬種標準の解説② ・各自のモデル犬で実践
3	道具の使用
4	シャンプーの方法
5	ブローに関して
6	自分の犬に合うシャンプー選択と実践
7	場面や用途に合わせたシャンプー選択と実践
8	実演
9	上級生とのペア演習
10	下級生とのペア演習
11	パートナードッグでの実践
12	パートナードッグでの実践と完成度
13	パートナードッグでの実践と完成度と時間配分
14	セットペーパーでの毛の保護
15	最終課題

使用教材	ホワイトボード　犬種標準書		
成績評価	(最終課題)　35% (授業参加度)　50% (出席)　15%	最終課題の方法	実技試験 最終的な仕上がりだけでなく、道具の使用・作業方法や手順、モデル犬の触り方も含めた総合審査による
その他 注意事項	小テストにてセットペーパーでのラッピング頭部から背中まで(2年時で実施)		

総合ペット学科

科目名	ショークリップⅠ				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	工藤　堀江　伊藤　小野寺　髙辻
使用教室	トリミングルーム	開講数	30	開講時期	1年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		60時間/2単位	
科目概要	・関連科目　：　グルーミング、トリミング ・授業の内容及び方法 専門学校に年勤務した経験、またトリミング競技会やドッグショーでの実績を活かし、コンディションに合わせたプードルのグルーミング方法をお伝えします。 また、プードル犬種標準の理解を深めながら、継続的な練習により少しずつ技術の精度を上げて行きます。				
到達目標	ecoトリマーライセンスC級（パピークリップセットなし）合格（2月頃実施予定）				

授業計画

	講義概要
1	パピークリップ　犬種標準に基づく解説
2	パピークリップ　犬種標準に基づく解説と実演
3	クリッパーの入れ方とラインの処理
4	トップノットのラインと作り方　スウェルの作り方
5	パートナードッグでの実践①
6	パートナードッグでの実践②
7	パートナードッグでの実践③
8	パートナードッグでの実践④
9	パートナードッグでの実践⑤
10	パートナードッグでの実践⑥
11	パートナードッグでの実践⑦
12	パートナードッグでの実践⑧
13	パートナードッグでの実践⑨
14	パートナードッグでの実践⑩
15	最終課題

使用教材			
成績評価	（最終課題）　35% （授業参加度）　50% （出席）　15%	最終課題の方法	実技試験 パピークリップ（2時間）
その他 注意事項			

科目名	ショークリップⅡ				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	工藤　堀江　伊藤　小野寺　髙辻
使用教室	トリミングルーム	開講数	30	開講時期	2年前期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		60時間/2単位	
科目概要	・関連科目　：　グルーミング、トリミング ・授業の内容及び方法 専門学校に年勤務した経験、またトリミング競技会やドッグショーでの実績を活かし、コンディションに合わせたプードルのグルーミング方法をお伝えします。 また、プードル犬種標準の理解を深めながら、継続的な練習により少しずつ技術の精度を上げて行きます。				
到達目標	パピークリップ（セットあり）				

授業計画

	講義概要
1	復習パピークリップ実演
2	セットアップ実演
3	1年生とペア実演
4	3年生とペア実演
5	パートナードッグでの実践①
6	パートナードッグでの実践②
7	パートナードッグでの実践③
8	パートナードッグでの実践④
9	パートナードッグでの実践⑤
10	パートナードッグでの実践⑥
11	パートナードッグでの実践⑦
12	パートナードッグでの実践⑧
13	パートナードッグでの実践⑨
14	パートナードッグでの実践⑩
15	最終課題

使用教材			
成績評価	（最終課題）　35% （授業参加度）　50% （出席）　15%	最終課題の方法	実技試験 パピークリップ（2時間）セットアップあり
その他 注意事項			

科目名	ショークリップⅢ				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	工藤　堀江　伊藤　小野寺　髙辻
使用教室	トリミングルーム	開講数	30	開講時期	2年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		60時間/2単位	
科目概要	・関連科目　：　グルーミング、トリミング ・授業の内容及び方法 専門学校に年勤務した経験、またトリミング競技会やドッグショーでの実績を活かし、コンディションに合わせたプードルのグルーミング方法をお伝えします。 また、プードル犬種標準の理解を深めながら、継続的な練習により少しずつ技術の精度を上げて行きます。				
到達目標	ecoトリマーライセンスB級パピークリップⅡ（セットあり）（12月実施予定）　→ケネル＆ラムクリップ				

授業計画

	講義概要
1	パピークリップⅡ　犬種標準に基づく解説
2	パピークリップⅡ　犬種標準に基づく解説と実演
3	クリッパーの入れ方とラインの処理
4	トップノットのラインと作り方　スウェルの作り方
5	パートナードッグでの実践①
6	パートナードッグでの実践②
7	パートナードッグでの実践③
8	パートナードッグでの実践④
9	パートナードッグでの実践⑤
10	パートナードッグでの実践⑥
11	最終課題①　パートナードッグでのパピークリップセカンド　（12月頃予定）
12	ケネル＆ラムクリップ　犬種標準に基づく解説
13	ケネル＆ラムクリップ　犬種標準に基づく解説と実演
14	パートナードッグでの実践　ケネル＆ラムクリップ
15	最終課題②　パートナードッグでのケネル＆ラムクリップ　（3月頃予定）

使用教材			
成績評価	（最終課題）　35% （授業参加度）　50% （出席）　15%	最終課題の方法	実技試験 パピークリップⅡ（2時間）セットあり
その他 注意事項			

科目名	ケネル＆ラムクリップ				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	工藤　堀江　伊藤　小野寺　髙辻
使用教室	トリミングルーム	開講数	30	開講時期	3年前期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		60時間/2単位	
科目概要	・関連科目　：　グルーミング、トリミング ・授業の内容及び方法 専門学校に年勤務した経験、またトリミング競技会やドッグショーでの実績を活かし、コンディションに合わせたプードルのグルーミング方法をお伝えします。 また、プードル犬種標準の理解を深めながら、継続的な練習により少しずつ技術の精度を上げて行きます。				
到達目標	ケネル＆ラムクリップ　JKC競技会入賞もしくは試験合格				

授業計画

	講義概要
1	ケネル＆ラムクリップ　犬種標準に基づく解説と実演①
2	ケネル＆ラムクリップ　犬種標準に基づく解説と実演②
3	パートナードッグでの実践①
4	パートナードッグでの実践②
5	パートナードッグでの実践③
6	パートナードッグでの実践④
7	パートナードッグでの実践⑤
8	パートナードッグでの実践⑥
9	パートナードッグでの実践⑦
10	中間課題発表会　ケネル＆ラムクリップ
11	JKC試験直前　パートナードッグで実践①
12	JKC試験直前　パートナードッグで実践②
13	JKC試験直前　パートナードッグで実践③
14	JKC試験直前　パートナードッグで実践④
15	最終課題　ケネル＆ラムクリップJKC試験1ケ月前

使用教材			
成績評価	(最終課題)　35% (授業参加度)　50% (出席)　15%	最終課題の方法	ケネル＆ラムクリップ（2時間）
その他 注意事項			

科目名	ペットクリップ				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	工藤　堀江　伊藤　小野寺　髙辻
使用教室	トリミングルーム	開講数	30	開講時期	3年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		60時間/2単位	
科目概要	・関連科目　：　グルーミング、トリミング ・授業の内容及び方法 専門学校に年勤務した経験、またトリミング競技会やドッグショーでの実績を活かし、コンディションに合わせたプードルのグルーミング方法をお伝えします。 また、プードル犬種標準の理解を深めながら、継続的な練習により少しずつ技術の精度を上げて行きます。				
到達目標	ファーストコンチネンタルクリップ				

授業計画

	講義概要
1	JKCトリマー試験の振り返り
2	ファーストコンチネンタルクリップの犬種標準に基づく解説と実演
3	パートナードッグでの実践①
4	パートナードッグでの実践②
5	パートナードッグでの実践③
6	パートナードッグでの実践④
7	パートナードッグでの実践⑤
8	パートナードッグでの実践⑥
9	パートナードッグでの実践⑦
10	パートナードッグでの実践⑧
11	パートナードッグでの実践⑨
12	パートナードッグでの実践⑩
13	パートナードッグでの実践⑪
14	パートナードッグでの実践⑫
15	最終課題

使用教材			
成績評価	(最終課題)　35% (授業参加度)　50% (出席)　15%	最終課題の方法	ファーストコンチネンタルクリップ（2時間）
その他 注意事項			

科目名	スタンダード美容理論Ⅰ				
科目区分	選択必修	授業形態	講義	担当講師	伊藤　愛
使用教室		開講数	15	開講時期	1年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		30時間/2単位	
科目概要	・事前課題　：　使用テキストを閲覧しておくこと ・事後課題　：　次講義の課題は授業内にてその都度提示 ・関連科目　：　トリミング実習、ウィッグ ・授業内容及び方法 様々な犬種の歴史や特徴、スタンダードを理解し、また各犬種毎の ペットクリップのバリエーションやトリミング技法を説示します。				
到達目標	様々な犬種のペットクリップやトリミング技法を習得し、実技授業に生かして技術を身に付ける				

授業計画

	講義概要
1	グルーミング用語とその意味　①
2	グルーミング用語とその意味　②
3	グルーミング犬種とトリミング犬種
4	断尾・断耳、狼爪切除について
5	シーズー・マルチーズのペットクリップ　①
6	シーズー・マルチーズのペットクリップ　②
7	ヨークシャー・テリアのペットクリップ
8	プードルのスタンダード
9	プードルのペットクリップ　（テディベアカット）
10	プードルのペットクリップ　（ケネル&ラムクリップ　①）
11	プードルのペットクリップ　（ケネル&ラムクリップ　②）
12	ミニチュア・シュナウザーのペットクリップ
13	ポメラニアンのペットクリップ
14	後期定期試験実施
15	後期定期試験の解答と解説

使用教材	テキスト(ドッググルーマーズワークブック、プードルの教科書、犬種図鑑)、配布プリント		
成績評価	(最終課題)　40% (授業参加度)　45% (出席)　15%	最終課題の方法	記述式試験
その他 注意事項	飲料可。授業内で指示に応じてインターネット使用可。授業参加度はテキストの不所持、授業に関係ない私語や作業、居眠りは減点評価。授業に関する積極的な質問・発言は加点評価になります。		

総合ペット学科

科目名	スタンダード美容理論Ⅱ				
科目区分	選択必修	授業形態	講義	担当講師	伊藤　愛
使用教室		開講数	15	開講時期	2年前期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		30時間/2単位	
科目概要	・事前課題　:使用テキストを閲覧しておくこと ・事後課題　:次講義の課題は授業内にてその都度提示 ・関連科目:トリミング実習、ウイッグ ・授業内容及び方法 グルーミング犬種とトリミング犬種のスタンダード(犬種標準)とトリミング技法や ペットクリップ及びショークリップなどのカットバリエーションを説示します。				
到達目標	トリマーとしての知識・心得を習得し、実技授業に生かしてトリミング技術を身に付ける				

授業計画

	講義概要
1	C級ライセンス試験の振り返り
2	プードルのラッピング
3	プードル　パピークリップ　①
4	プードル　パピークリップ　②
5	プードル　パピークリップⅡ　①
6	プードル　パピークリップⅡ　②
7	シーズーのスタンダード
8	マルチーズのスタンダード
9	ヨークシャー・テリアのスタンダード
10	ミニチュア・シュナウザーのスタンダード
11	ポメラニアンのスタンダード
12	ビション・フリーゼのスタンダード
13	ビション・フリーゼのペットクリップ
14	前期定期試験実施
15	前期定期試験の解答と解説

使用教材	テキスト(ドッググルーマーズワークブック、プードルの教科書、犬種図鑑)、配布プリント		
成績評価	(最終課題)　40% (授業参加度)　45% (出席)　15%	最終課題の方法	記述式試験
その他 注意事項	飲料可。授業内で指示に応じてインターネット使用可。授業参加度はテキストの不所持、授業に関係ない私語や作業、居眠りは減点評価。授業に関する積極的な質問・発言は加点評価になります。		

科目名	スタンダード美容理論Ⅲ				
科目区分	選択必修	授業形態	講義	担当講師	伊藤　愛
使用教室		開講数	15	開講時期	2年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		30時間/2単位	
科目概要	・事前課題　:使用テキストを閲覧しておくこと ・事後課題　:次講義の課題は授業内にてその都度提示 ・関連科目:トリミング（グルーミング） ・ 授業内容及び方法 トリミング犬種のスタンダード（犬種標準）とトリミング技法やペットクリップ 及びショークリップなどのカットバリエーションを説示します。				
到達目標	トリマーとしての知識・心得を習得し、実技授業に生かしてトリミング技術を身に付ける				

授業計画

	講義概要
1	スパニエル犬種について
2	アメリカン・コッカー・スパニエルのスタンダード
3	アメリカン・コッカー・スパニエルのペットクリップ
4	イングリッシュ・コッカー・スパニエルのスタンダード
5	イングリッシュ・コッカー・スパニエルのペットクリップ
6	テリア犬種について
7	ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリアのスタンダード
8	ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリアのペットクリップ
9	ワイヤー・フォックス・テリアのスタンダード
10	ワイヤー・フォックス・テリアのペットクリップ
11	プードル　コンチネンタル・クリップ　①
12	プードル　コンチネンタル・クリップ　②
13	プードル　イングリッシュ・サドル・クリップ
14	後期定期試験実施
15	後期定期試験の解答と解説

使用教材	テキスト（ドッググルーマーズワークブック、プードルの教科書、犬種図鑑）、配布プリント		
成績評価	（最終課題）　40% （授業参加度）　45% （出席）　15%	最終課題の方法	記述式試験
その他 注意事項	飲料可。授業内で指示に応じてインターネット使用可。授業参加度はテキストの不所持、授業に関係ない私語や作業、居眠りは減点評価。授業に関する積極的な質問・発言は加点評価になります。		

科目名	スタンダード美容理論Ⅳ				
科目区分	選択必修	授業形態	講義	担当講師	伊藤　愛
使用教室		開講数	15	開講時期	3年前期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		30時間/2単位	
科目概要	・事前課題　:使用テキストを閲覧しておくこと ・事後課題　:次講義の課題は授業内にてその都度提示 ・関連科目:トリミング実習、ウイッグ ・授業内容及び方法 グルーミング犬種とトリミング犬種のスタンダード(犬種標準)とトリミング技法や ペットクリップ及びショークリップなどのカットバリエーションを説示します。				
到達目標	トリマーとしての知識・心得を習得し、実技授業に生かしてトリミング技術を身に付ける				

授業計画

	講義概要
1	B級ライセンス試験の振り返り
2	プードル パジャマ・ダッチ・クリップ
3	プードル　ボレロ・マンハッタン・クリップ
4	プードル　様々なアレンジカット　①
5	プードル　様々なアレンジカット　②
6	プードル　様々なアレンジカット　③
7	プードル　様々なアレンジカット　④
8	テリア犬種のペットクリップ　①
9	テリア犬種のペットクリップ　②
10	グルーミング犬種のスタンダード　①
11	グルーミング犬種のスタンダード　②
12	グルーミング犬種のスタンダード　③
13	グルーミング犬種のスタンダード　④
14	前期定期試験実施
15	前期定期試験の解答と解説

使用教材	テキスト(ドッググルーマーズワークブック、プードルの教科書、犬種図鑑)、配布プリント		
成績評価	(最終課題)　40% (授業参加度)　60% (出席)　15%	最終課題の方法	記述式試験
その他 注意事項	飲料可。授業内で指示に応じてインターネット使用可。授業参加度はテキストの不所持、授業に関係ない私語や作業、居眠りは減点評価。授業に関する積極的な質問・発言は加点評価になります。		

科目名	スタンダード美容理論Ⅴ				
科目区分	選択必修	授業形態	講義	担当講師	伊藤　愛
使用教室		開講数	15	開講時期	3年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		30時間/2単位	
科目概要	・事前課題　:使用テキストを閲覧しておくこと ・事後課題　:次講義の課題は授業内にてその都度提示 ・関連科目:トリミング（グルーミング） ・ 授業内容及び方法 トリミングサロンの現場にて遭遇する様々な状況に対応・対処出来る トリマーとしての知識や応対を説示します。				
到達目標	トリマーとしての知識・心得を習得し、実技授業に生かしてトリミング技術を身に付ける				

授業計画

	講義概要
1	グルーミング・トリミング作業における事故への対処法　①
2	グルーミング・トリミング作業における事故への対処法　②
3	犬の皮膚状態・脱毛について　①
4	犬の皮膚状態・脱毛について　②
5	子犬のグルーミング
6	老齢犬のグルーミング
7	グルーミング・トリミング作業の総括　①
8	グルーミング・トリミング作業の総括　②
9	グルーミング・トリミング作業の総括　③
10	グルーミング・トリミング作業の総括　④
11	グルーミング・トリミング作業の総括　⑤
12	グルーミング・トリミング作業の総括　⑥.
13	グルーミング・トリミング作業の総括　⑦
14	後期定期試験実施
15	後期定期試験の解答と解説

使用教材	テキスト（ドッググルーマーズワークブック）、配布プリント		
成績評価	（最終課題）　40% （授業参加度）　45% （出席）　15%	最終課題の方法	記述式試験
その他 注意事項	飲料可。授業内で指示に応じてインターネット使用可。授業参加度はテキストの不所持、授業に関係ない私語や作業、居眠りは減点評価。授業に関する積極的な質問・発言は加点評価になります。		

総合ペット学科

科目名	行動修正演習Ⅰ～Ⅲ				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	山美　希実
使用教室		開講数	15	開講時期	1年後期～2年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		30時間/1単位	
科目概要	・学内犬の抱える問題行動の把握、原因究明を行い担当者内または学内で適切なコミュニケーションを取り、情報共有を行う ・問題行動に対しての改善のプログラムを立てる ・改善プログラムの実行、犬の変化に気づく観察力を培う				
到達目標	・犬の問題行動改善を目指します				

授業計画

	講義概要
1	担当犬の把握 （苦手なこと、好きなこと、できないこと、できること）
2	担当犬の把握（過去にさかのぼり今までの過ごし方、経験等）
3	実例の共有（手入れ時の問題）
4	実例の共有（散歩の問題）
5	実例の共有（対、犬・人の問題）
6	改善プログラムの作成
7	改善プログラムを全体で発表・共有
8	改善プログラムの実行
9	改善プログラムを通して犬の反応や行動変化のチェック
10	改善プログラムの見直し
11	改善プログラムの経過報告・全体で共有
12	改善プログラムの経過報告・全体で共有からの意見交換
13	改善プログラムの効果について
14	改善プログラムの発展
15	成果の発表

使用教材			
成績評価	（最終課題）　50% （授業参加度）　35% （出席）　15%	最終課題の方法	毎授業での取り組みを記録しまとめたものをレポートとして提出
その他 注意事項			

総合ペット学科

科目名	トレーニング概論				
科目区分	選択必修	授業形態	講義	担当講師	山美　希実
使用教室		開講数	15	開講時期	1年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		30時間/2単位	
科目概要	トレーニング業界での常識的な知識やトレーニング用語を解説 犬のボディランゲージを理解し洞察力を鍛える				
到達目標	犬という動物を理解しトレーニングの理論を学び犬の行動に対する客観的洞察力を習得 自身のトレーニングに反映する				

授業計画

	講義概要
1	業界について：訓練競技会(家庭犬訓練、課目、種目)
2	各協会の取り組みと特徴
3	血統書の見方、その犬の性格や犬種の適性
4	使役犬について、犬の特性
5	ボディランゲージについて(口、舌、耳)
6	ボディランゲージについて(目、頭部、胴部)
7	ボディランゲージについて(プレイバウ、逆毛、重心)
8	ボディランゲージについて(静止画を見て犬の気持ちを読む)
9	転移行動、転嫁行動
10	犬の学習方法
11	犬の学習方法、オペラント条件付け、古典的条件付け
12	クリッカートレーニング
13	体罰について
14	犬の喧嘩
15	総まとめ

使用教材			
成績評価	(最終課題) 50% (授業参加度) 35% (出席) 15%	最終課題の方法	筆記試験
その他 注意事項			

総合ペット学科

科目名	基本訓練Ⅰ～Ⅵ				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	山本、今野、長尾、油谷、山美
使用教室		開講数	165	開講時期	1年前期～3年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		330時間/11単位	
科目概要	基礎訓練の概要を把握するだけでなく、細かい部分の理解をすすめる。 振り返りから修正箇所を分析、目標をもって行動する習慣を持つことで出来る項目を増やす。 ラリーオビディエンスの科目を増やす。				
到達目標	基礎訓練の形を理解し、自ら振り返り意欲的にトレーニングを行う姿勢をみにつける ラリーオビディエンスアトラクションの科目の達成				

授業計画

	講義概要
1	授業の目的・流れ、評価ポイントの説明、自己紹介
2	目標・目的を明確にする
3	基礎訓練の姿勢について　脚側の位置・距離感
4	基礎訓練の姿勢について　脚側中の方向変換
5	基礎訓練の姿勢について　脚側中の集中
6	基礎訓練の姿勢について　歩き出しの際のポイント
7	基礎訓練の姿勢について　立止の重心について
8	ラリーオビディエンスのかもくについて
9	ロングリードの使い方・トレーニングで使用するポイント
10	臆病な犬へのアプローチ
11	応用　反転ターン
12	振り返りから学ぶためのポイント
13	段階を見極める　出来てる時もある　or　出来る
14	引継ぎを意識した振り返りと課題を把握
15	実技試験

使用教材			
成績評価	(最終課題) 50% (授業参加度) 35% (出席) 15%	最終課題の方法	実技試験を実施する
その他 注意事項	トレーニングの進行状況によって講義内容を変更する場合あり		

科目名	警察犬Ⅰ～Ⅵ				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	長尾、山美
使用教室		開講数	90	開講時期	1年前期～3年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		180時間/6単位	
科目概要	・犬の嗅覚を生かしたトレーニングへの取り組み。 ・警察犬審査会・競技会にむけた実践的な訓練手法を修得します				
到達目標	・競技会出場　・警察犬審査会受験　・担当犬の訓練性能向上				

授業計画

	講義概要
1	授業の流れや目的の説明、現状の犬・人のトレーニング課題の確認、目標設定
2	警察犬とは
3	警察犬訓練の内容の説明
4	追及のトレーニング①　地面のおやつを食べる
5	追及のトレーニング②　足跡とおやつの紐づけ
6	追及のトレーニング③　足跡をたどればおやつ
7	追及のトレーニング④　追及の目的を犬に明確にゴールに目的
8	追及のトレーニング⑤　緩やかなカーブ
9	追及のトレーニング⑤　屈折
10	臭気選別のトレーニング　物を咥える
11	臭気選別のトレーニング　物を持ってくる
12	臭気選別のトレーニング　選別の布を咥える・持ってくる
13	臭気選別のトレーニング　選別台から布をもってくる
14	臭気選別のトレーニング　嗅ぎ分け1/2
15	トレーニング成果発表・試験

使用教材			
成績評価	(最終課題)　40% (授業参加度)　45% (出席)　15%	最終課題の方法	実技試験実施
その他 注意事項	トレーニングの進行状況は各人・犬の能力によって変わります		

総合ペット学科

科目名	ドッグスポーツⅠ～Ⅵ				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	山本、今野、長尾、油谷、山美
使用教室		開講数	180	開講時期	1年前期～3年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		360時間/12単位	
科目概要	アジリティー、フリスビーのドッグスポーツ技術を取得し、それを通じて犬との関係性を深める 人と犬に怪我なく分かりやすいドッグスポーツの内容と方法				
到達目標	大会で授業で培った知識と技術により良い成績を出す 犬の些細な事も気づいて対応できるようになる どの犬種にも対応できる知識と技術が身に付く				

授業計画

	講義概要
1	授業の目的と流れの説明
2	競技をする上での犬とのコミュニケーションの取り方
3	犬を叱らないで指示をする方法
4	競技をする前の犬との上下関係の構築方法
5	競技に対する犬の意欲の持ち上げ方
6	フリスビーを遠くに投げる方法
7	犬に物事を教えて行くときの順序（フォワードステップ・バックステップチェーン）
8	競技するときの犬をコントロールする方法
9	犬にアジリティー道具を認識させる方法　スラローム
10	犬にアジリティー道具を認識させる方法　Aフレーム
11	犬にアジリティー道具を認識させる方法　シーソー
12	犬にアジリティー道具を認識させる方法　ドッグウォーク
13	アジリティーコース（ビギナー以上）の解説
14	アジリティーコース（ビギナー以上）をクリアする方法
15	実技試験

使用教材			
成績評価	（最終課題）　30% （授業参加度）　55% （出席）　15%	最終課題の方法	実技試験を実施する
その他 注意事項	トレーニングの進行状況によっては講義内容を変更する場合あり		

科目名	救助犬Ⅰ～Ⅵ				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	長尾、山美
使用教室		開講数	90	開講時期	1年前期～3年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		180時間/6単位	
科目概要	授業の内容及び方法　災害救助犬について学び、実践的な訓練を行う。				
到達目標	・救助犬訓練を通して犬の能力、精神状態、接し方（扱い方）を学ぶ				

授業計画

	講義概要
1	現時点での犬との関係性、訓練精度の確認
2	救助犬について
3	サークルトレーニング①　人と褒美を結びつける
4	サークルトレーニング②　対象人物（要救助者）の認知
5	サークルトレーニング③　応用編
6	訓練①　咆哮
7	訓練②　告知作業（ヘルパーが見える状態）
8	訓練③　告知作業（ヘルパーが見えない状態）
9	訓練④　靴を履かせる（対人）・休止
10	訓練⑤　トンネル・前進
11	訓練⑥　渡橋・シーソー
12	訓練⑦　捜索（平面）
13	訓練⑧　捜索（瓦礫）
14	訓練⑨　捜索（瓦礫）
15	実技試験（服従作業、捜索作業【要救1名】）

使用教材	黒板またはホワイトボード、アラートボックス		
成績評価	（最終課題）　40% （授業参加度）　45% （出席）　15%	最終課題の方法	実技試験
その他 注意事項	トレーニングの進行状況は各人・犬の能力によって変わります□ □ □		

総合ペット学科

科目名	セラピードッグ Ⅰ ～ Ⅴ				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	高橋　絵里
使用教室		開講数	75	開講時期	1年後期～3年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		150時間/5単位	
科目概要	セラピードッグで活動する為の基礎知識を学び パートナードッグでの活動を視野に入れた基礎トレーニングを学ぶ。				
到達目標	犬とコミュニケーションを取る中で犬を観察、情態を理解し正しい指示や行動を出す事 犬だけでなく、対人とのコミュニケーションへも意識する事 実際にセラピー活動を行う				

授業計画

	講義概要
1	授業の目的、授業の流れ、評価ポイントの説明、自己紹介
2	セラピードッグの活動を模擬体験
3	活動で好まれる事
4	環境慣れのポイント
5	アイコンタクトの重要性
6	指示の出し方・褒め方・タイミングについて
7	犬の情態をコントロールすこと
8	犬の基本姿勢　リーダーウォーク
9	犬の基本姿勢　座れ
10	犬の基本姿勢　脚側の位置
11	犬の基本姿勢　伏せ
12	犬の基本姿勢　来い
13	犬の基本姿勢　立て
14	犬の基本姿勢　脚側行進
15	実技試験

使用教材			
成績評価	(最終課題) 25% (授業参加度) 60% (出席) 15%	最終課題の方法	実技試験実施
その他 注意事項			

総合ペット学科

科目名	訓練準士補演習Ⅰ～Ⅲ				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	
使用教室		開講数	90	開講時期	2年後期～3年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		180時間/6単位	
科目概要	JKC訓練準士補の資格取得に向けて、必要となる実技試験・筆記試験の内容を理解し対策をしていく				
到達目標	JKC訓練準士補の資格取得				

授業計画

	講義概要
1	JKC訓練準士補の資格取得要領の確認
2	現状の犬のレベル、問題点の確認
3	実技試験にむけて。脚側行進
4	実技試験に向けて。紐無し脚側行進
5	実技試験に向けて。停座及び招呼
6	実技試験に向けて。停座、伏臥、立止
7	実技試験に向けて。行進中の伏臥
8	実技試験に向けて。行進中の停座
9	実技試験に向けて。自由課目
10	筆記対策。犬体名称、部位、骨格
11	筆記対策。咬合
12	筆記対策。主な病気
13	筆記対策。用語
14	筆記試験対策。規定
15	試験実施

使用教材			
成績評価	(最終課題) 40% (授業参加度) 45% (出席) 15%	最終課題の方法	実技試験
その他 注意事項			

総合ペット学科

科目名	動物介在				
科目区分	選択必修	授業形態	講義	担当講師	高橋　絵里
使用教室		開講数	15	開講時期	2年前期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		2年前期	
科目概要	アニマルセラピーや補助犬について学び効果や役割を理解する セラピー犬として活動できる犬の育成				
到達目標	セラピー活動の実施				

授業計画

	講義概要
1	授業の進め方の説明、アニマルセラピーについて
2	動物が介在する活動について（動物介在介入）
3	動物が介在する活動について（セラピーの効果）
4	ロボットセラピー、ドールセラピーについて
5	ドッグセラピーにいついて
6	高齢者の方を理解する
7	子供との関わりについて
8	体験学習（どんな体験をしたのか、自分にとってどんな体験か、次回感想文提出） 実践
9	補助犬について
10	盲導犬について
11	介助犬について
12	聴導犬について
13	体験学習（どんな体験をしたのか、自分にとってどんな体験か、次回感想文提出） 実践
14	体験学習（どんな体験をしたのか、自分にとってどんな体験か、次回感想文提出） 実践
15	テスト 実践

使用教材			
成績評価	（最終課題）　45% （授業参加度）　40% （出席）　15%	最終課題の方法	筆記試験実施
その他 注意事項	参加度は発言、発表、態度、小テストなどで見ます。ランダムに授業中に小テストを行います 授業前に前回の授業の復習をすること。進行状況により体験学習が前後する場合があり		

科目名	競技会演習Ⅰ～Ⅴ				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	山美　希実
使用教室		開講数	105	開講時期	1年前期～3年前期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		210時間/7単位	
科目概要	公式競技会に向けた訓練手法の修得 イベント等でのデモンストレーション方法を修得 学外での犬のパフォーマンスを最大限引き出すべく手法を修得します				
到達目標	競技会で入賞、デモンストレーションの発表				

授業計画

	講義概要
1	授業の流れ、評価ポイント説明
2	公式戦での振る舞い。目指すべく姿とは
3	各担当犬の課題
4	普段通りのパフォーマンスを引き出すために
5	犬の苦手ポイントを把握
6	犬の得意ポイントを把握
7	人の苦手意識の克服
8	人前でのトレーニング
9	人前でのトレーニング
10	人に魅せるトレーニング、魅せ方
11	グループでデモンストレーション
12	グループでデモンストレーション
13	グループでデモンストレーション
14	グループでデモンストレーション
15	課題発表（実技試験）

使用教材			
成績評価	（最終課題）　50% （授業参加度）　35% （出席）　15%	最終課題の方法	実技試験を実施
その他 注意事項			

総合ペット学科

科目名	レザークラフトⅠ～Ⅱ				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	岡崎　幸二
使用教室	workroom	開講数	60	開講時期	3年前期～3年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		120時間/4単位	
科目概要	・レザークラフトの知識と技術について学ぶ。 ・革製品を製作・販売していた会社で働いていた経験を活かして、作品を製作する為の知識と基礎技術を修得する				
到達目標	お客様からの受注を受け採寸し制作・販売（首輪・リード）				

授業計画

	講義概要
1	首輪の製作開始。 革の染色・レザークラフトの基本の練習をしながらネームプレート製作・革についての基礎知識を学んでもらう。
2	革の色止め剤塗り・ボンドを使って革の貼り合わせ・ヤスリを使いコバのズレなどの調整・コンパスを使って穴あけ位置のガイド引き。
3	綺麗な縫い目にする為の基本練習・ヒシ目をい縫い穴あけ作業・ロウ引き糸を使い革の縫い作業。
4	ロウ引き糸を使い革の縫い作業・バックルの穴開け。
5	コバのヘリ落としと磨き・金具類を留めて首輪を完成させる。
6	製作した首輪の発表会。苦手だった作業の練習。
7	型紙の製作・自作の型紙を使い小物製作。
8	リードの製作開始。 革の染色・染色した革の乾燥待ち時間にキーホルダーの製作。
9	革の色止め剤塗り・ボンドを使って革の貼り合わせ。ヤスリを使いコバのズレなどの調整。
10	コンパスを使い穴あけ位置のガイド引き・ヒシ目を使い縫い穴あけ作業。
11	ヒシ目を使い縫い穴あけ作業・ロウ引き糸を使い革の縫い作業。
12	ロウ引き糸を使い革の縫い作業・コバの減り落としと磨き作業。
13	コバの減り落としと磨き・金具と持ち手を留めてリードを完成させる。
14	販売品作成
15	販売品作成

使用教材			
成績評価	（最終課題）　45% （授業参加度）　40% （出席）　15%	最終課題の方法	首輪・リードの提出　販売品の作成
その他 注意事項	飲料の持込は可。犬の持ち込みは不可		

総合ペット学科

科目名	フォト				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	西山　大介
使用教室	workroom	開講数	15	開講時期	1年後期
曜日/時限	月曜日/1.2講目　隔週	単位時間/単位数		30時間1単位	
科目概要	・授業内容、方法　一眼レフカメラの構造、使い方、レンズの効果、撮影時の光の性質を解説し、実際に犬を被写体にした撮影を行いドッグフォトに必要な技術、撮影手法を身につける。				
到達目標	一眼レフカメラを使ってのドッグフォトの撮影手法を身につける。				

授業計画

	講義概要
1	一眼レフカメラの使い方、露出について
2	犬を被写体にしての撮影（適正露出のとり方）
3	犬を被写体にしての撮影（露出の補正）
4	犬を被写体にしての撮影（アングル構図等）
5	犬を被写体にしての撮影（アングル構図等）
6	犬を被写体にしての撮影（広角、望遠レンズの効果）
7	犬を被写体にしての撮影（広角、望遠レンズの効果）
8	屋外での撮影（順光、逆光について、レフ板の使い方）
9	屋外での撮影（順光、逆光について、レフ板の使い方）
10	屋外での撮影（シャッタースピードの管理、流し撮りの方法）
11	屋外での撮影（シャッタースピードの管理、流し撮りの方法）
12	室内での撮影（窓からの自然光と蛍光灯等、環境光の違いについて）
13	室内での撮影（窓からの自然光と蛍光灯等、環境光の違いについて）
14	室内での撮影（小道具等を使ったスタジオセッティング）
15	室内での撮影（小道具等を使ったスタジオセッティング）

使用教材	カメラ、レンズ等		
成績評価	（最終課題）　35% （授業参加度）　50% （出席）　15%	最終課題の方法	作品の提出
その他 注意事項			

科目名	フードコーディネートⅠ～Ⅱ				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	高砂　田代　岩井
使用教室	workroom	開講数	30	開講時期	2年前期～2年後期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		60時間/2単位	
科目概要	総合栄養食と一般食の違いについて理解する。 犬の使用しても良い安全な食材を選択し衛生面に配慮し調理を行う。				
到達目標	犬の使用してもいい食材を理解し準備から後片付けまでをスムーズに行う。				

授業計画

	講義概要
1	食物中毒について
2	ハンバーグ
3	米粉を使ったお菓子作り①
4	米粉を使ったパン作り①
5	米粉を使ったお菓子作り②
6	米粉を使ったパン作り②
7	米粉を使ったお菓子作り③
8	お魚のグラタン
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

使用教材			
成績評価	(最終課題) 35% (授業参加度) 50% (出席) 15%	最終課題の方法	レシピの作成
その他 注意事項			

総合ペット学科

科目名	ドッグウェアⅠ～Ⅱ				
科目区分	選択必修	授業形態	演習	担当講師	金平　佳奈子
使用教室	workroom	開講数	60	開講時期	2年後期～3年前期
曜日/時限	時間割参照	単位時間/単位数		120時間/4単位	
科目概要	洋裁の基本を学び、ドッググッズを製作する。 道具や生地の使用方法を学ぶ。製作過程をこなし、技術を習得する中で自由課題では自らのデザインした作品を製作できるようになる。 製図、裁断、縫製の一連の作業を身に着ける。デザイン性を考え、一つ一つの作業を丁寧に行い、より完成度の高い作品を目指す。				
到達目標	3年前期ではお客様からの受注を受け採寸し制作・販売				

授業計画

	講義概要
1	洋裁の基本
2	ミシンの使用方法
3	縫い方の種類
4	ボタン・ファスナーなどの付け方
5	犬用枕の作成（TRパートナードッグ用）
6	Tシャツ
7	パーカー
8	アウター作成（パートナードッグまたは学校犬用）
9	販売用見本作成
10	販売用見本作成
11	販売品作成
12	販売品作成
13	販売品作成
14	販売品作成
15	販売品作成

使用教材	ミシン・ロックミシン・アイロン・洋裁用具・製作過程のプリント、型紙		
成績評価	（最終課題）　20% （授業参加度）　65% （出席）　15%	最終課題の方法	作品の提出
その他 注意事項	飲料は可。スマホ利用は講義に関する調べもののみ使用可。作業台の上には作業に必要なもの以外乗せない。講義前に全てしまって、実習に必要な道具を準備しておいてください。犬の持ち込み不可		